

個人投資家の皆様の相場環境等に対する意識調査のため、2024 年 6 月 6 日から 6 月 10 日までインターネットを通じて、マネックス証券に口座をお持ちのお客様向けにアンケート調査（回答数 1,389 件）を実施しました。回答いただいた皆様のご協力に感謝いたします。誠にありがとうございました。

今回、定例調査である個人投資家の相場観の調査に加え、特集として「NISA 口座の利用状況と 2024 年のマーケット変動」等について調査しました（当社ウェブサイトへの掲載日は、2024 年 6 月 20 日です）。

「MONEX 個人投資家サーベイ」は、個人投資家の相場環境に対する意識調査としてアンケートを行い、その調査結果をまとめたものです。2009 年 10 月に第 1 回サーベイを行い、2009 年 11 月から 2016 年 3 月までは月次で、2016 年 4 月から 2016 年 12 月までは隔月、2017 年 3 月以降は四半期毎に調査結果を公表しています。

また、グループ会社であるトレードステーション証券（米国）、マネックスBOOM証券（香港）の個人投資家の皆様にも調査を行い、調査結果を「MONEX グローバル個人投資家サーベイ」として公表しております。2011年6月から2016年3月までは四半期毎、2016年6月以降は半年毎、2018年12月以降は、1年毎に調査結果を公表しています。

■調査結果

【特別調査】

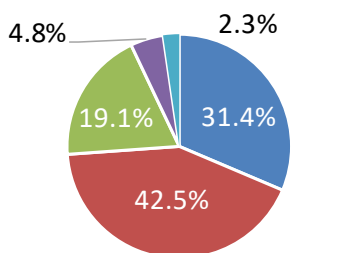
1. 2024 年日経平均株価とダウ平均株価の高値予想

特別調査の1つ目として、2024 年の日経平均株価、ダウ平均株価の高値予想を調査しました。

1-1. 2024 年の日経平均株価の高値予想は「40,889 円以上 42,000 円未満」が最多。ダウ平均株価の高値予想は「40,004 ドル以上 42,000 ドル未満」が最多

【参考 6 月 14 日の日経平均株価終値：38,814.56 円、6 月 14 日のダウ平均株価終値：38,589.16 ドル】

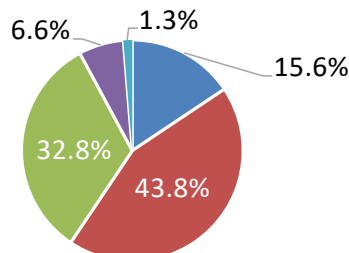
グラフ1-1: 2024年日経平均株価高値予想



- 40,888円 (2024年3月22日終値)
- 40,889円以上42,000円未満
- 42,000円以上43,000円未満
- 43,000円以上45,000円未満
- 45,000円以上

(出所) マネックス証券作成

グラフ1-2: 2024年ダウ平均株価高値予想



- 40,003ドル (2024年5月17日終値)
- 40,004ドル以上42,000ドル未満
- 42,000ドル以上45,000ドル未満
- 45,000ドル以上50,000ドル未満
- 50,000ドル以上

(出所) マネックス証券作成

2024 年の日経平均株価の高値、並びにダウ平均株価の高値の予想を調査しました（調査開始日 6 月 6 日の日経平均株価終値は 38,703.51 円、6 月 5 日のダウ平均株価の終値は 38,807.33 ドル）。

2024 年の日経平均株価高値予想は、「40,889 円以上 42,000 円未満」が今年の高値になるという方の割合が 42.5%と最も多くなりました。続いて「40,888 円（年初来高値）」が 31.4%となっています。

ダウ平均株価高値予想は「40,004 ドル以上 42,000 ドル未満」が今年の高値になるという方の割合が 43.8%と最も多く、続いて「42,000 ドル以上 45,000 ドル未満」が 32.8%となっています。日本株よりも米国株式のほうが高値への期待が高い結果となりました。

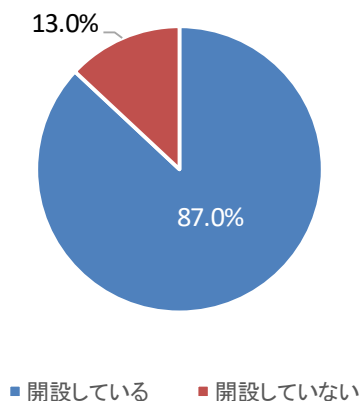
2. NISA 口座の利用状況

特別調査の2つ目として、NISA 口座の利用状況について調査しました。

2-1. NISA 口座の開設状況と利用状況について

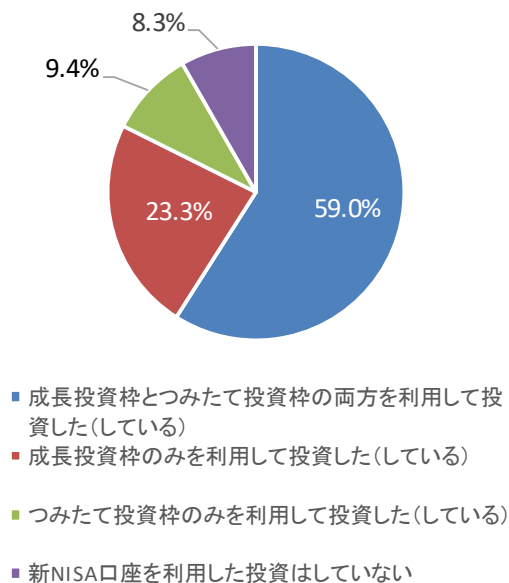
NISA 口座の開設状況と利用状況について調査しました。

グラフ2-1：NISA口座開設状況



(出所) マネックス証券作成

グラフ2-2：NISA口座利用状況



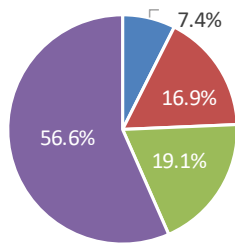
(出所) マネックス証券作成

9割近くの方がNISA 口座を開設していることが分かりました。2024年3月の調査結果と比較すると、NISA 口座を開設している方のうち成長投資枠とつみたて投資枠の両方を利用している方の割合が53.6%から59.0%に増加しました。

2-2. 成長投資枠での投資金額について

「成長投資枠とつみたて投資枠の両方を利用して投資した(している)」または「成長投資枠のみを利用して投資した(している)」と回答された方に投資予定金額とすでに投資した金額をたずねました。

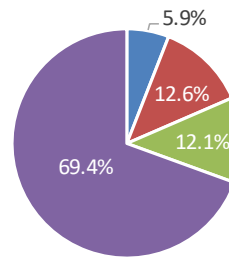
グラフ2-3: 今年の成長投資枠での投資予定金額



- 12万円以下
- 12万円超60万円以下
- 60万円超120万円以下
- 120万円超240万円以下

(出所) マネックス証券作成

グラフ2-4: 成長投資枠ですでに投資した金額



- 3万円以下
- 3万円超15万円以下
- 15万円超30万円以下
- 30万円超240万円以下

(出所) マネックス証券作成

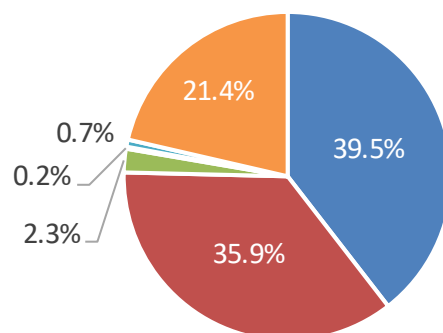
5割以上の方が今年中に120万円を超える金額を投資する予定であり、7割近くの方が30万円を超える金額をすでに投資していることが分かりました。

2024年3月の調査結果と比較すると、30万円を超える金額をすでに投資している方の割合が61.9%から69.4%に増加しました。

2-3. 成長投資枠で保有している銘柄の保有方針について

「成長投資枠とつみたて投資枠の両方を利用して投資した(している)」または「成長投資枠のみを利用して投資した(している)」と回答された方に成長投資枠で保有している銘柄の保有方針をたずねました。

グラフ2-5: 成長投資枠で保有している銘柄の保有方針



- 10年間以上保有する方針
- 1~10年間保有する方針
- 1年以内に売却する方針
- 半年以内に売却する方針
- 数か月以内に売却する方針
- 特に決めていない

(出所) マネックス証券作成

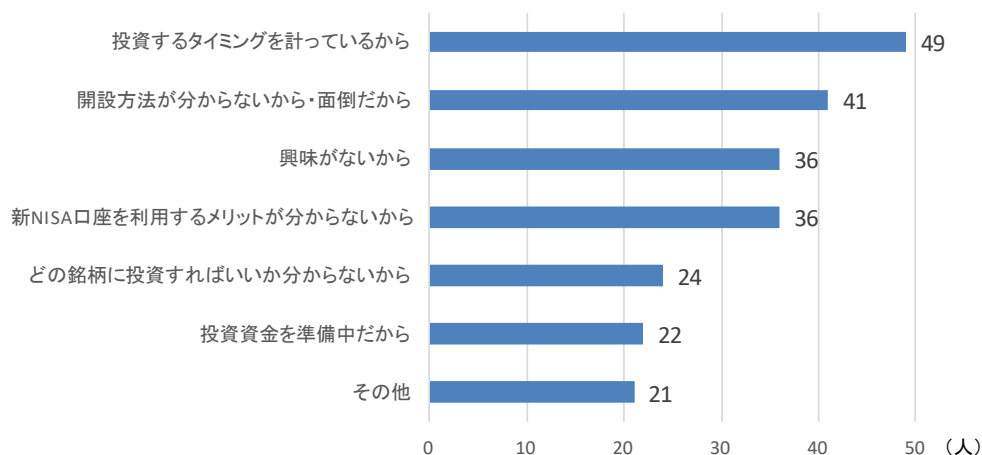
4割近くの方が今年中に10年以上保有する方針であり、1年以内あるいはそれより短期間のうちに売却する方針である方はわずか4%未満であることが分かりました。

2-4. NISA 口座を開設あるいは利用していない理由について

「NISA 口座を開設していない」、「(NISA 口座は開設しているが) NISA 口座を利用した投資はしていない」と回答された方にその理由をたずねました。

グラフ2-6: NISA口座を開設していない理由は何ですか

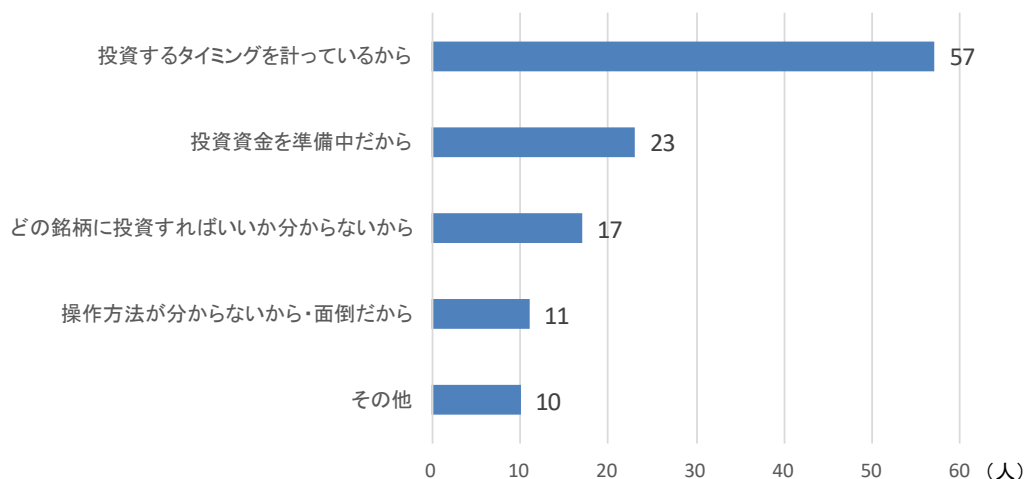
(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

グラフ2-7: NISA口座を利用していない理由は何ですか

(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

NISA 口座を開設していない方、利用していない方ともに「投資するタイミングを計っているから」という回答が最多となりました。

3. 2024 年前半のマーケット変動と 2024 年後半の注目テーマ、所得増加に向けた諸政策について

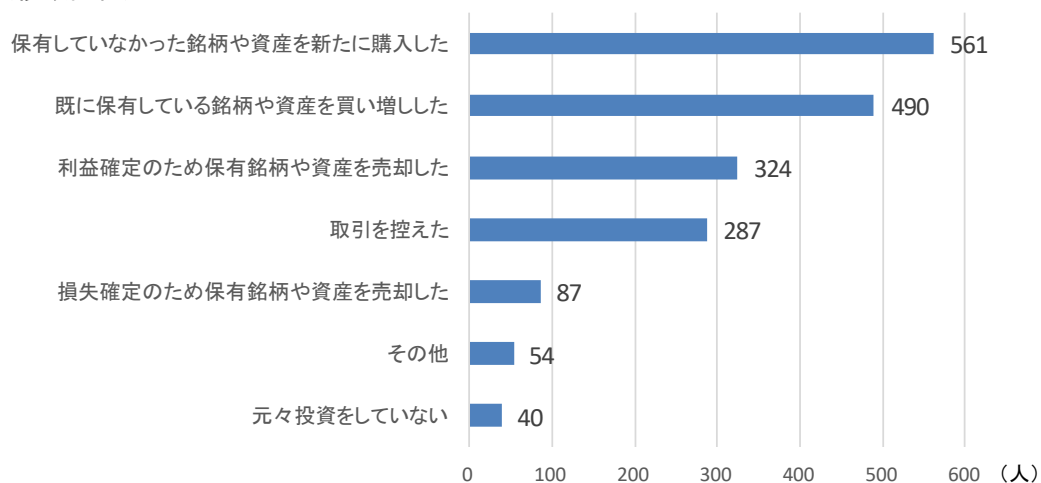
特別調査の3つ目として、2024年のマーケット変動と注目テーマ、所得増加に向けた諸政策について調査しました。

3-1. 2024 年前半のマーケット変動を受けた投資状況の変化

2024 年前半は米ドル／円が歴史的な円安水準で推移するなか、3 月には日経平均が 4 万円を超え、5 月にはダウ平均が 4 万ドルを突破し、長期金利が約 12 年ぶりに 1.025%に上昇するなどマーケットに関するニュースが相次ぎました。それらのニュースを受け、投資状況にどのような変化があったかをたずねました。

グラフ3-1：2024年前半のマーケット変動を受けた投資状況の変化

(複数回答)



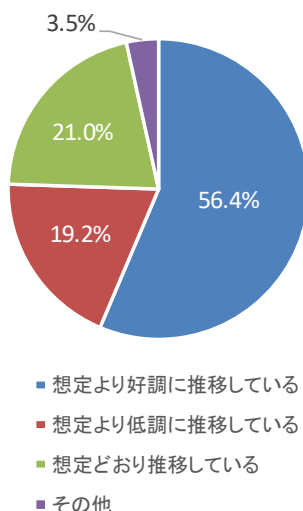
(出所) マネックス証券作成

「保有していなかった銘柄や資産を新たに購入した」という回答が最多となり、「既に保有している銘柄や資産を買い増した」という回答が続く結果となりました。「売却」や「取引を控えた」という回答も一定数ありましたが、全体としては投資額を増やした方が多かったです。

3-2. 2023 年末の想定と比較した 2024 年前半の相場動向

2024 年前半の日本株の相場動向について、2023 年末に想定していた相場展望と比較してどのように推移しているかをたずねました。

グラフ3-2：2023年末の想定と比較した2024年前半の相場動向



(出所) マネックス証券作成

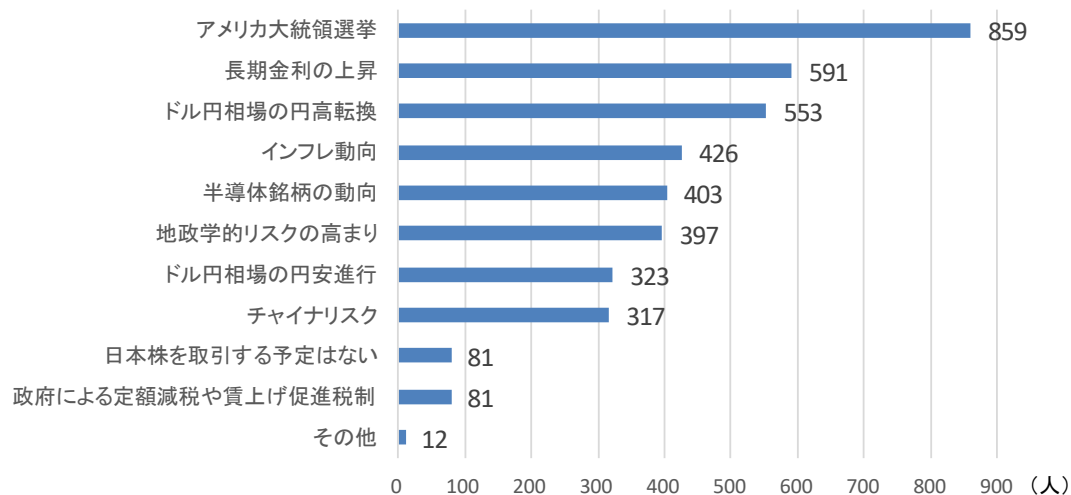
「想定より好調に推移している」という回答が5割を超え、「想定どおり」との回答を含めると全体の3/4以上が想定以上となる一方で「想定より低調に推移している」という回答も一定数見られました。

3-3. 2024年後半で注目しているテーマ

日本株の取引にあたって2024年後半で注目しているテーマをたずねました。

グラフ3-3：日本株取引にあたって2024年後半で注目しているテーマ

(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

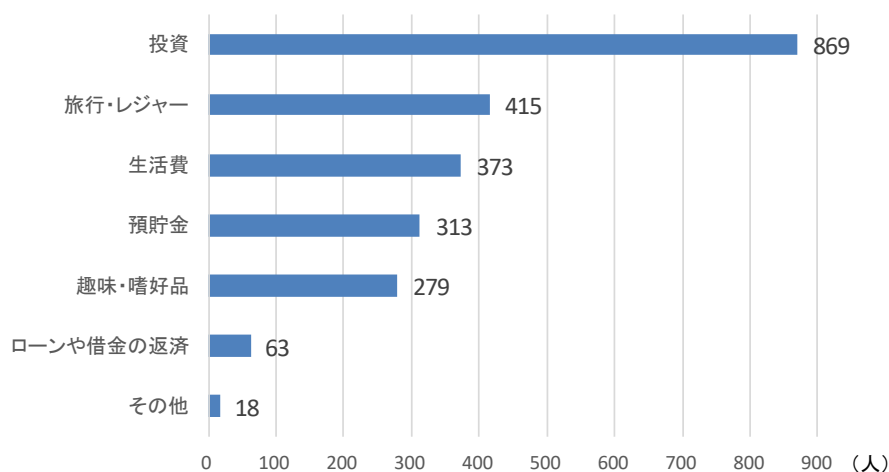
予定される大きなイベントである「アメリカ大統領選挙」という回答が最多となりました。また相場変動を受け、長期金利やドル円への注目度の高さも確認されました。

3-4. 所得が増加した場合に何に資金を充当するか

日本政府は「物価高を上回る所得の増加」を掲げており、定額減税や賃上げ促進税制の実施が発表されていることについて、所得が増加した場合に何に資金を充当するかをたずねました。

グラフ3-4: 定額減税などで所得が増加した場合に何に資金を充当しますか

(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

「投資」という回答が圧倒的に多い結果となりました。また「旅行・レジャー」が続いており、生活防衛よりも前向きな回答が多くみられています。

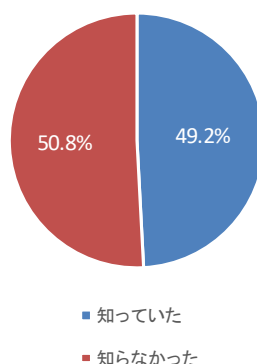
4. マネックス証券の「マネックスカード投信つみたて (クレカ積立)」について

特別調査の4つ目として、マネックス証券のサービス「クレカ積立」について調査しました。

4-1. クレカ積立の積立設定上限額の引き上げについて

2024年4月買付分からクレカ積立の積立設定上限額が5万円から10万円に引き上げられたことの認知についてたずねました。

グラフ4-1: クレカ積立の積立設定上限額の引き上げについて



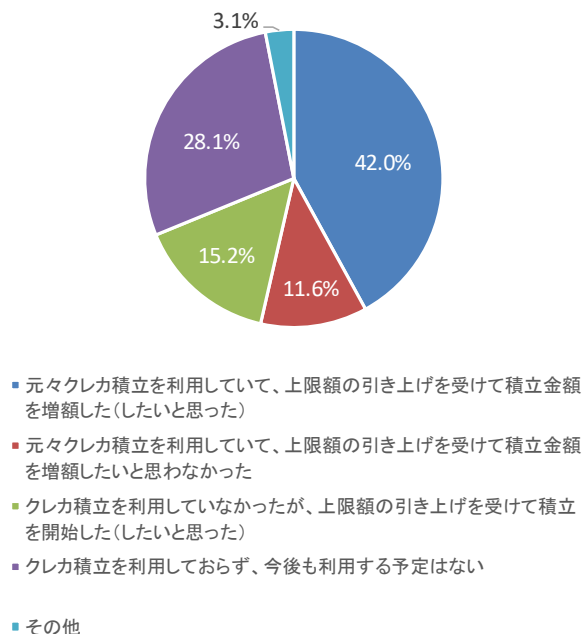
(出所) マネックス証券作成

「知っていた」という回答と「知らなかった」という回答がほぼ同数となりました。

4-2.クレカ積立の利用意向

積立設定上限額の引き上げについて「知っていた」と回答された方にクレカ積立の利用意向をたずねました。

グラフ4-2：クレカ積立の利用意向



(出所) マネックス証券作成

「元々クレカ積立を利用して、上限額の引き上げを受けて積立金額を増額した(したいと思った)」および「クレカ積立を利用していなかったが、上限額の引き上げを受けて積立を開始した(したいと思った)」の2つの回答を合計すると5割以上の方が上限額の引き上げを前向きに捉えてくださっていることが分かりました。

なお、2024年7月5日(金)からドコモのクレジットカードで投信つみたてができる「dカード^(※)」によるクレカ積立(dカード積立)を開始し、同日より2024年8月買付分のお申込みを受け付けします。毎月の積立額に対して最大1.1%のdポイントが還元されるほか、最大で積立額の5%が還元されるキャンペーン(ドコモ主催)も実施いたします。

※「dカード」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。

【定例調査～個人投資家の相場観について～】

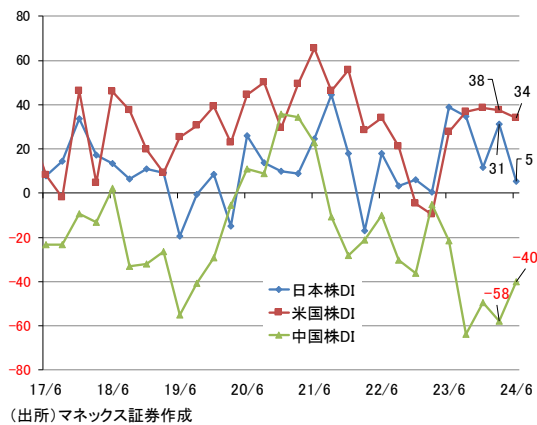
4. 日本、米国、中国のDIについて

今後3ヶ月程度の各国(日本、米国、中国)の株式市場に対する個人投資家の見通しは、日本と米国は前回調査(2024年3月)から悪化、中国は小幅ながら改善が見られました。特に日本の悪化幅は大きいですが、ここ数回の調査では数値が比較的落ち着いている米国株に対して、日本株の数値は振れやすい傾向にあります。

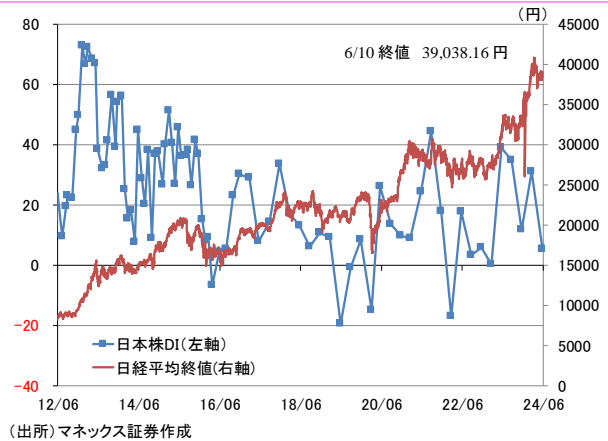
- 【日本株 DI】 (2024年3月) 31 → (2024年6月) 5 (前回比 -26ポイント)
- 【米国株 DI】 (2024年3月) 38 → (2024年6月) 34 (前回比 -4ポイント)
- 【中国株 DI】 (2024年3月) -58 → (2024年6月) -40 (前回比 +18ポイント)

※ DI: DIとは、相場が「上昇すると思う」と回答した割合(%)から「下落すると思う」と回答した割合(%)を引いたポイントです。DIがプラスとは、「上昇すると思う」と回答した割合が高く、DIがマイナスとは、下落すると思うと回答した割合が高いことを示します。

グラフ5-1: 今後3か月程度の株価予想



グラフ5-2: 日経平均株価(終値)と日本株DIの推移

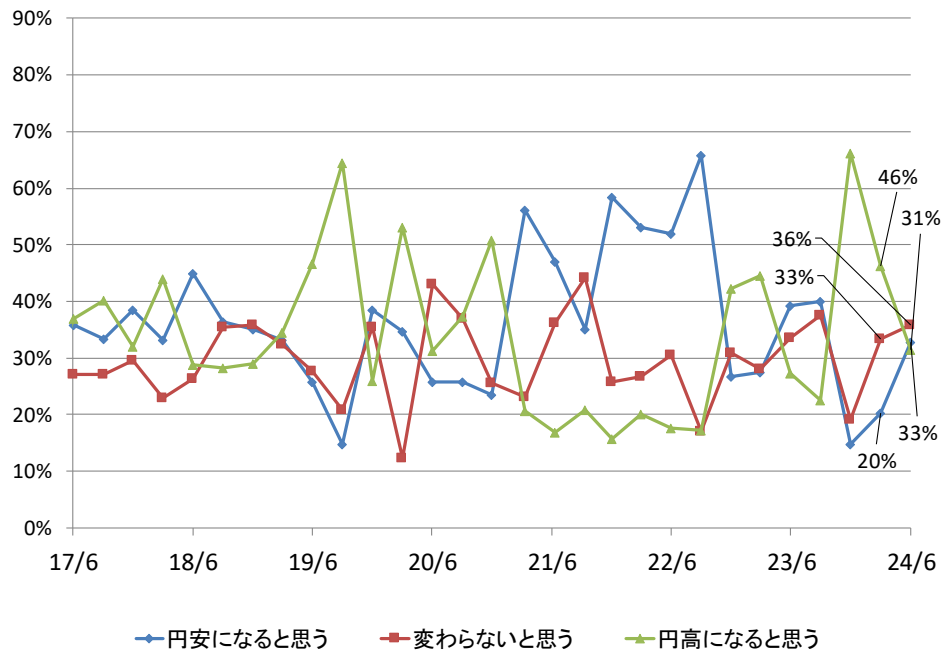


5. 為替市場について

今後3ヶ月程度の米ドル/円相場に対する個人投資家の見通しは、「円安になると思う」が前回比+13%で33%となりました。「変わらないと思う」の回答の割合も前回調査からはプラス、「円高になると思う」の回答の割合は前回比-15%で31%となりました。全体の見方は拮抗する形となっております。

- 【円安になると思う】 (2024年3月) 20% → (2024年6月) 33% (前回比+13%)
- 【変わらないと思う】 (2024年3月) 33% → (2024年6月) 36% (前回比 +3%)
- 【円高になると思う】 (2024年3月) 46% → (2024年6月) 31% (前回比-15%)

グラフ6-1: 今後3ヶ月程度の米ドル/円相場予想



(出所) マネックス証券

■総括 (マネックス証券 インvestment・ストラテジーズ 塚本 憲弘)

今回は 2024 年の日米株価高値予想や NISA 口座の利用状況、2024 年のマーケット変動について調査を行いました。

調査対象の日経平均株価とダウ平均株価は前回調査以降の 3 ヶ月間では、日経平均株価がもみ合いの一方、米国株式はダウ平均株価ではもみ合いですが、S&P500 指数やナスダック指数では高値追いの展開となる中、先行きの見通しは日米ともに強気優勢ながら、米国株式がより楽観的な結果となりました。

また NISA 口座の利用状況によると、活用が進む一方で投資のタイミングを計っている方も多く、また所得が増加した場合の用途の回答からも、今後の投資意欲の高さが伺えました。

相場観アンケートからは日本株の見方が引き続き大きく振れている点、米ドル/円の見方が拮抗している点を確認されており、我々の情報発信やサービスの拡充によって、皆様の投資対象の選定や投資行動、成果向上がなされるよう努めてまいります。

今回も皆様のご協力により有益な調査結果を得ることができました。皆様の資産運用を考える一助となれば幸いです。

2024 年 6 月 17 日 執筆

■調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査
 調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家
 回答数： 1,389
 調査期間： 2024年6月6日～6月10日

【性別】

男性	女性	回答しない
75.9%	21.8%	2.3%

【年齢】

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	80歳以上
0.3%	1.0%	6.5%	20.2%	37.0%	24.1%	9.0%	1.9%

【金融資産】

500万円未満	500万円～1000万円	1000万円～2000万円	2000万円～5000万円	5000万円～1億円	1億円以上
15.6%	17.2%	18.1%	26.0%	13.8%	9.3%

【売買頻度】

デイトレード	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
3.6%	9.5%	34.1%	26.3%	26.5%

【株式投資のご経験】

1年未満	1年～5年	5年～10年	10年以上
7.7%	17.1%	15.8%	59.4%

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したのではなく、また示唆するものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・ グラフの数値は、小数点以下の計算により合計が必ずしも100.0%とならない場合があります。

マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本暗号資産取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会